

令和元年度山陽小野田市高齢者保健福祉推進会議(第1回)の書面による開催に伴う委員の方々からの意見の概要と市の考え方等

項目	意見の概要	市の考え方又は対応
第3章 第3節 2(4)	生きがいと健康づくり推進事業において、グランドゴルフやスポーツ大会参加者が減少してきています。老人クラブ会員の高齢化等が原因の様ですが、もっと楽しく、楽に参加したくなる企画(例えば、懐かしの歌謡曲や童謡を歌い楽しむ会等)を工夫してみるのはいかがでしょうか？	現在、生きがいと健康づくり推進事業において、実施している老人クラブ大会、スポーツ大会、グランドゴルフ大会は、高齢の方が健康で生きがいを持った生活を送るために有効な事業であり、また長年にわたり実施されており、今後も継続していきたいと考えております。また、老人クラブ大会においては、歌や演奏や踊り等も行っています。御意見は、今後の事業の参考とさせていただきます。
第3章 第4節 3(1)	費用、人的に成り立たない事業はできない。その事業が必要なら、要件を見直すしかない。住民主体の事業は、事務・運営方法を支援する必要があるのでは？	協議体の設置については、社会福祉協議会に業務を委託しており、令和2年度中には、全ての地域で第2層協議体を設置見込みとなっています。今後も、地域住民が主体となって地域づくりを進められるよう、会議への参加などを通し連携して支援してまいります。
第3章 第5節 1(2)	脳いきいきクラブが少しずつ増えているが、いきいき百歳体操に比べればまだ少ないと思われる。各自治会にもっと紹介していただきたいと思う。 今からも高齢者がどんどん増えていくと考えますので、見学会などを行って、実施内容を見ていただきたいと思います。	いきいき百歳体操は運動、脳いきいきクラブは認知症予防を主に行うものですが、脳いきいきクラブの設置箇所の方が少ない現状ですので、市民の皆様にもっと知っていただくよう、いただいた御意見を参考にしながら周知方法について検討したいと思います。
	私自身がいきいき介護サポーターなので、第3節の記述は読み取れた。 「いきいき百歳体操」に参加している方々のお話はよく聞くので広がりを感じる。「脳いきいきクラブ」と「いきいき百歳体操」が別物であるということを知った。 いずれも楽しい様子が伝わるニュース的なものを自治会回覧板で知らせるのはいかがでしょうか。	いきいき百歳体操や脳いきいきクラブの活動の様子については、多くの市民に知っていただけるよう、いただいた御意見を参考に、市広報への掲載などを含め周知方法を検討したいと思います。
	脳いきいきクラブの実施は百歳体操とペアで実施できるように指導・助言してはどうか？	プレゼンテーションの際、いきいき百歳体操と脳いきいきクラブの両方をご紹介する内容にしたいと思います。
第3章 第5節 1(5)	「あたまの若返り教室」に興味があります。市広報を注意して読みますので、実施予定が決まったら広報にのせてください。	あたまの若返り教室は、あたまの健康チェックで、MCI(軽度認知障害)の疑いと判定された方へ参加の御案内をしています。あたまの健康チェックは、MCIを早期に発見するきっかけとなる検査でどなたでも受けることができます。実施については、市広報でお知らせいたします。

<p>第3章 第5節 2(2)</p>	<p>「要因及び今後の方針」の記事の中で、下から4段目の通所型サービス(第1号訪問事業)は、通所型サービス(第1号通所事業)ではないか？</p>	<p>御指摘のとおりです。 正しくは、通所型サービス(第1号通所事業)です。</p>
<p>第4章</p>	<p>ケアマネジャーの公平・公正、そして最良のケアプランができるような判断力の育成が出来ているでしょうか。 ケアマネジャーは、そのほとんどが市の職員(公務員)ではないと思われませんが、ケアプランを立てる時、自分の所属する施設を中心に(または安易)にプランニングしていないでしょうか。 基本的に患者(被介護支援者)ファーストでプランを立てるよう、ケアマネジャーの教育ができていいのか気になります。理想はケアマネジャーの生活基盤が(公平・公正とは思えないから)公正な立場である市の職員であるべきだと思うからです。 何とかケアマネフィーは、市が直接保証する制度が必要だと思います。</p> <p>令和元年度の要介護認定者が減少したため介護給付費の減少は想定内だと思います。(桁が多くてははっきりとわからないのですが) また、要支援の方は計画より増えていますが、給付費が少ないのは住宅改修、福祉用具の他はあまり使われない方がいらっしゃるのでしょうか。給付額の少ない支援1の方の増加だからかもしれません。</p>	<p>御指摘のとおりケアマネジャーは自立支援・重度化防止に資するサービスになるようケアプランを作成する必要があります。 その人にふさわしい過不足のない適切な介護サービス、保健医療サービス、インフォーマルサービス等を総合的に提供することが、これまでも増して求められるようになってきています。引き続き給付の適正化を図る中で、ケアプランを検証し、ケアマネジャーの資質向上のための取組を行ってまいります ケアマネジャーに係る費用については、社会保障審議会等で検討される事項となりますので、今後も国の動向を注視してまいります。</p> <p>要支援の方の介護予防通所介護サービスと介護予防訪問介護サービスは、平成29年度から総合事業に移行したため、介護給付費が減少しています。</p>

<p>全般に関すること</p>	<p>アドバンス・ケア・プランニングについて全市民が取り組めるよう、ニーズの把握を行い、ニーズを満たすような計画が重要。先駆的取組を行う市として福祉計画を推進されてはどうか。</p>	<p>医療や介護が必要になっても在宅で自分らしい暮らしを続けるために、本市においても在宅医療・介護連携推進事業を実施しているところです。アドバンス・ケア・プランニングを含め、まずは、市民への普及啓発を進めていくことが大変重要であると認識しておりますので、ご意見にありますように、市民のニーズ把握を含め第8期計画策定を進めてまいりたいと考えています。</p>
	<p>定期巡回随時対応型訪問介護・看護サービスが市内で1事業所だが、これを計画で手厚くする必要が有ると思います。</p>	<p>御指摘のとおり定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの指定に関しましては、市内では一か所になっておりますが、その他市民の方が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続していただくための介護サービスとして、通いを中心として訪問、泊まりのサービスを一体的に提供できる小規模多機能型居宅介護、さらに医療度が高くなられた方を対象として訪問看護サービスの利用も可能となる看護小規模多機能型居宅介護を生活圈域ごとにいずれか1か所、合計5か所整備しております。第8期介護保険事業計画を策定する中で、利用状況を精査し検討してまいります。</p>
	<p>認知症高齢者が増加するのであればグループホームを増やす必要があるはずで、利用者が横ばいと見込むことが妥当なのでしょうか。</p>	<p>高齢化が進む中、認知症の方をどのように援助していくかは非常に大きな課題となっております。グループホームに関しましては、生活圈域ごとに1～2事業所整備しております。またサービス付き高齢者住宅や有料老人ホームも24か所建設され今後も増加傾向にあります。利用者様の心身の状況や、生活環境等把握し、その方が安心して生活できる環境を提案させていただくように心がけています。第8期介護保険事業計画を策定する中で、利用状況を精査し検討してまいります。</p>
	<p>山陽小野田市は高齢化率が30%以上あるので、これからも要支援・要介護認定者数は増加していくことでしょう。介護予防活動に取り組まれている様子が見えます。市民に周知していただき積極的に参加できる場づくりをお願いします。</p>	<p>広報など周知に努めてまいります。</p>

<p>第3章 第3節 1(1)</p>	<p>第1号登録者数70%以上、第2号登録者数30%以下(2025年計画値) 読売新聞アンケート調査(2020年3/23)による 介護保険の「維持困難」の9割の自治体 ・人材、事業者不足でサービス量が確保できない ・高齢者の増加にサービスの供給が追い付かない。対策は「外国人、地域のボランティアから多様な人材の活用に取り組む必要有り」 ※老人クラブの役割 地域で進められている支え合い活動(介護予防・日常生活支援総合事業)への参画を推進し高齢者が高齢者を支える生活支援介護双方の担い手として活動を行う。</p>	<p>—</p>
<p>第3章 第3節 2(4)</p>	<p>高齢者の自発的な運動参加は必要と思います。 生きがいと健康づくり推進事業の参加者が少ないのは残念です。ただ、通いの場が増え、そちらに行かれたり、総合事業の通所に行かれることも関係あるかもしれないです。</p>	<p>—</p>
	<p>老人クラブ大会、スポーツ大会参加者数減少について(一般参加を含め) 老人クラブ数、クラブ会員の高齢化、会長、リーダー後継者不足によるクラブ解散等が原因であるが、若手委員会の増強推進で歯止めを行い、若手ならではの活動の検討推進を目指す「会員増強」  グランドゴルフ大会について 3/12開催予定、第13回グランドゴルフ大会は中止となったが、参加予定者は合計192名(小野田老連80名:41%、山陽老連40名:21%、一般72名:38%)となり 今後高齢者人気スポーツとして一般参加の増加が見込まれる。一般参加者増による準備、運営について弊害が発生している。小野田、山陽の理事21名が役割分担し、大会当日の世話をしているが、役員の高齢化、体調不調等による人手不足が発生している。参加者(一般)は会員外であり、他の大会での実力者ぞろいであるため、高位入賞者が多数と老連会員からも不満の声もある。今後のテーマとして検討していきたい。</p>	<p>—</p>
	<p>老人クラブに加入する人が少なく、クラブ数も減少している現状とのこと。 楽しい活動に加え、社会的活動(交通安全、清掃、見守り、見回りなど)、地域の役に立つ活動も、魅力のある活動になると思う。 働くシニア世代が、休日などに参加できるような「社会活動」「ボランティア活動」があり、夫婦で、個人で、単発的にでも、参加できるようになると良い。退職してからの継続的活動につながるとなお良い。 上記のように考えると、自治会単位の老人クラブではなく、活動単位の広域的な老人クラブ運営が必要になると思う。</p>	<p>—</p>

第3章 第4節 1(2)	地域ケア会議で抽出された地域課題を、地域住民の支援活動や、生活支援サービス体制につなげられるよう共有し、協力するようしたら良いと思う。そのコーディネーターに期待する。	—
第3章 第4節 3(1)	孤立した家族介護者がないように、日常的な声かけ、誘いかけをする人的資源を作る、把握するようにしたい。 「地域で支える」気運が広がり、浸透するには、幼少時からの教育が関係する。 ボランティア活動や施設等の訪問活動を、幼、小、中、高、大学、社会人を通して、継続的に 行い、「社会活動をすることが当たり前」の山陽小野田市になれば、「支えあい、助けあい」が進むと思う。	—
第3章 第4節 5(11)	ナースホンの増加は高齢世帯一人暮らしなどのためだと思います。今後も必要性が高まるので、周知が必要だと思います。逆に、家族の支援が少ないのは、必要ないのか、知らないのかわかりませんが、同居者がいる場合の援助の周知が十分なのであれば、少なくとも良いかと思っています。	—
全般に関 すること	推進してきた事業が、この1か月間の異常事態で悪影響が出てくるのではないかと懸念している。外での活動が閉ざされて、体力低下や認知症の進行等、増加しないことを祈るばかりです。	—
	全般的に計画どおり実践されており、このまま推移していけば問題ないと思われます。	—
	第3、4章とも要因、今後の方針で適切だと思っています。	—
	2025年に近づき、認知症の高齢者が増えてきています。要介護1の介護認定を受けられる方が増加しており、認知症予防への取り組み、認知症のある方の老々介護の支援が今まで以上に必要となってくると思います。 地域住民の支援(互助)ができれば一番良いと思いますが、うまくいかないケースがあるかなと思います。 地域でのサロンが増えていることは、そういった意味でもとてもすばらしいと思います。	—